

# 「認知症」とうまく付き合う

薬局薬剤師の『薬担当者の小嘶』として  
医薬品の開発や医療について医療関係者の視点から情報をお伝えします

## 認知症の種類と治療方針の違い

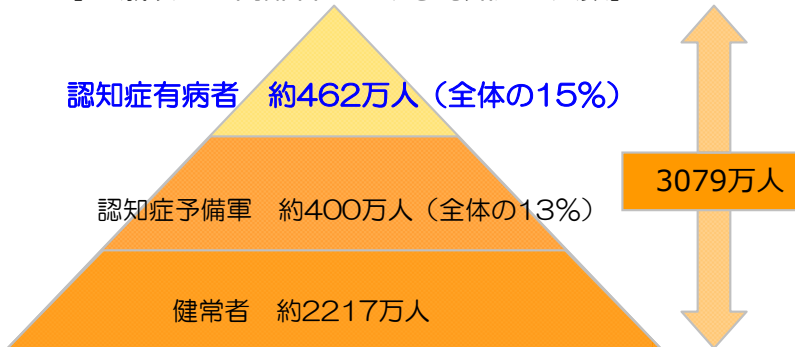
「認知症」とは、生後いつたんに正常に発達した精神機能が減退・消失する老いにもなう病気の一つです。さまざまな原因で脳の細胞が死ぬ、または働きが悪くなることによつて、記憶・判断力の障害などが起こり社会生活や対人関係に支障が出ている状態をいいます。

認知症にも種類があり、原因や症状が異なります。脳梗塞などの脳疾患が原因で脳の血流が低下し起こる**脳血管性認知症は治療をすれば症状が治まること**もあるといわれています。

他の**アルツハイマー型やレビー小体型認知症**は原因が判っておらず、薬による改善の効果は認められていません。現在の日本の薬で**出来る事は進行を抑制することだけ**です。そのため、早期発見・治療開始して、重度の認知症にならないようにつにすることが主流となっています。

日本では**新オレンジプラン**と呼ばれる**認知症に対する施策**を掲げており、その中で**認知症の予防・治療**の研究開発として、**2020年頃**までは**日本発の認知症根本治療薬の治験開始**を目指すとされています。

【65歳以上の高齢者における認知症の人数】



資料：厚生労働省 平成24年時点の推定値

## 【認知症患者とうまく付き合う十カ条】

1. 見逃すな「あれ、何かおかしい？」は、大事なサイン。
2. 早めに受診を。治る認知症もある。
3. 知は力。認知症の正しい知識を身につけよう。
4. 介護保険など、サービスを積極的に利用しよう。
5. サービスの質を見分ける目を持つよう。
6. 経験者は知恵の宝庫。いつでも気軽に相談を。
7. 今できることを知り、それを大切に。
8. 恥じず、隠さず、ネットワークを広げよう。
9. 自分も大切に、介護以外の時間を持つよう。
10. 往年のその人らしい日々を。

出典元：公益社団法人認知症の人と家族の会

認知症になる可能性は誰にでもあります。「認知症の本人は自覚がない」という考えも大きな間違いであり、**最初に症状に気づき、誰より一番不安になつて苦しむのは本人なのです。**

認知症の人は理解力が落ちていくものの、感情面はとても繊細です。あたたくく見守り適切な援助を受ければ、自分でもやることも増えていくでしょう。**認知症という病気を理解して、さりげなく自然で優しいサポートを心がけましょう。**

まずは理解、そしてサポートを

## 予防のはなし

先日開催した市民講座の来場者からの質問で、認知症に効果のあるサプリメントの有無についての質問がありました。食事由来のもので公に効果があるとされているものは抗酸化物質(ビタミンE、ビタミンC、βカロチン)、魚油に含まれるω-3系の長鎖不飽和脂肪酸がよいとされ、事実、魚の摂取量が多いとアルツハイマー病予防効果をもつとした報告があります。運動も脳血流の増加作用があるため、認知症の予防に効果があるとされています。

なかよし薬局では、地域貢献型の医療を目指して一緒に仕事をしてくれる薬剤師を募集しています！  
詳しくは下記連絡先まで！

株式会社イノベーションオブメディカルサービス 厚木支社 (採用担当) 電話：046-220-1171

電子メール：recruit@ims-inc.co.jp

Writer: Matsuoka Directed by: Matsuoka

